

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人堺市文化振興財団	
施 設 名	堺市民芸術文化ホール（フェニーチェ堺）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	27,244	(千円)
	公 演 事 業	22,214 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	5,030 (千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	川口成彦フォルテピアノ リサイタルシリーズ20 23	2023年6月24日他	出演：川口成彦 曲目：J.S.バッハ 協奏曲 短調 BWV979 他	目標値	780
		小ホール		実績値	661
2	THE フェニーチェ文楽	2024年3月2日	出演：竹本 錠太夫、桐竹勘十郎 演目：「日高川入相花王」 渡し場の 段 他	目標値	560
		大ホール		実績値	520
3	こどもオペラ「まほうの ふえ」～パミーナ姫のた んじょうび～	2023年8月5日	原作：モーツァルト作曲/オペラ「魔 笛」 出演：松原みなみ、谷川あお、他	目標値	800
		大ホール		実績値	1,087
4	The Real Chopin × 18 世紀オーケストラ	2024年3月10日	出演：18世紀オーケストラ、川口成 彦、トマシュ・リツェル、ユリアナ・アヴデーエワ 曲目：モーツァルト 交響曲第40番 ト短調 K.550 他	目標値	1,464
		大ホール		実績値	920
5	Dance Power 2023 in フェ ニーチェ堺	2023年8月26日	出演：大阪商業大学堺高等学校、鳳 高等学校、香ヶ丘リベルテ高等学校 他10校	目標値	1,454
		大ホール		実績値	945
6	東京混声合唱団 フェニ ーチェ堺特別公演	2023年10月8日	指揮：大井剛史 ピアノ：鈴木慎崇 合唱：東京混声合唱団	目標値	1,142
		大ホール		実績値	736
7	鳳凰亭落語シリーズ(落語 会6公演)	2023年5月13日他	出演：柳家喬太郎 他 演目：午後の保健室、死神 他	目標値	1,440
		小ホール		実績値	1,689
8	藤井颯太郎 作・演出 音楽 劇「鬱憤」	2023年9月15日他	出演：藤井颯太郎、鳩川七海、布目 慶太、橘カレン 他	目標値	160
		大スタジオ		実績値	455

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ワカテ de ワカルフェニー チェ文楽	2023年9月28日	演目：ワカル文楽「文楽大道具の魅力」、ワカテ鼎談、『傾城恋飛脚』『新口村の段』	目標値	520
		小ホール		実績値	286
2	ワカル文楽「観る前セミナー」	2024年1月21日他	講師：東 晴美 ゲスト：桐竹勘十郎（人形浄瑠璃文楽座 人形遣い）	目標値	96
		文化交流室		実績値	84
3	ワークショップ「ダンスに挑戦！」	2023年5月3日他	講師：原田 純子 他 様々な層を対象に4回実施	目標値	100
		大スタジオ他		実績値	83
4	音楽のあるひととき～大 阪交響楽団とともに～	2023年5月18日他	出演：大阪交響楽団メンバー 曲目：山田耕柝 弦楽四重奏曲 第2 番 ト長調 他	目標値	320
		小ホール 他		実績値	409
5	フェニーチェ演劇解体新 書（演劇ワークショップ）	2023年10月14日他	講師：藤井颯太郎 内容：『劇場すべてを“劇場”にする』 『現代の昔話を書いてみる』	目標値	32
		大スタジオ 他		実績値	35
6	知る！楽しい！もっと観 たいバレエ講座	2023年12月2日他	出演：解説／野間 景 出演／花井美夢、中西智美、宇多田 采佳、浅井莉香（野間バレエ団）他	目標値	150
		大スタジオ		実績値	75
7	まずはここから！ ひる らくご	2023年6月30日他	出演：桂かい枝、笑福亭喬介 各回落語2席とトークコーナー	目標値	168
		多目的室		実績値	201
8	知的・発達障害児(者)のた めの劇場体験プログラム～第 2回キラキラ音のお祭りコンサート～	2023年9月9日	出演：江戸聖一郎、城村奈都子、 安永早絵子、内藤里美、迎肇聡	目標値	300
		大ホール		実績値	260
9	こどもオペラ「まほうのふ え」音楽系・美術系ワーク ショップ	2023年5月21日他	内容：小道具制作ワークショップ、ホールの講 座、ホールに登場する楽器作り	目標値	105
		交流・創作ギャラリー他		実績値	89
10	ワークショップ「ゴスペル に挑戦！」	2023年9月5日他	講師：フェイスゴスペルスクール田邊裕子 全8回（発表会を含む）	目標値	50
		小ホール 他		実績値	67

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>堺市の中核文化施設であるフェニーチェ堺は、堺市の独自の文化を新たに創造し、文化による市民の交流を生み、地域文化を発信していく拠点施設である。同時に市民が心豊かな生活を実現する場であり、まちの魅力の増大による交流人口の増加や都市の賑いに寄与することにつなげていくため、施設のミッションを「見て聴いて感動する」「共につくる」「集い交わる」「学び育てる」「触れて知る」の5つとしている。</p> <p>公演事業では、堺の文化資源の活用によるアイデンティティの形成として、フォルテピアノの活用とその発展形である海外の古楽オーケストラの公演、堺が発祥と言われる三味線と関連する文楽や落語の企画により「観て聴いて感動する」公演を実施できた。同じく固有の文化資源と言える市内高校ダンス部や堺市合唱連盟との公演では「集い交わる」を具現化でき、ホール初となる自主制作の子どものためのオペラは地域の芸術文化団体である大阪交響楽団、堺市少年少女合唱団と「共につくる」公演となった。ホール初の演劇有料公演では来場者の90%が市外から来訪され、交流人口の増加にもつながった。</p> <p>普及啓発事業は、「集い交わる」「学び育てる」「触れて知る」というミッションの具現化のために事業を組み立てた。各種の普及型公演やワークショップでは「大阪交響楽団」、「野間バレエ団」や地域在住の講師などとの連携・協働も継続でき、また、若手の技芸員が主役級に配役される文楽公演をはじめ、文楽セミナー、演劇ワークショップも概ね計画通り実施できた。さらに、子どもや障がい者などが劇場にくる機会を増やし、あらゆる人々が集える劇場として、オペラに関連付けた工作ワークショップなどの実施や知的・発達障がい児（者）のための劇場体験プログラムを実施した。全ての事業がほぼ予定どおりに実施でき、地域の中核劇場として評価できるものとなった。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>文化的意義…公演事業番号3では制作全般をホールスタッフが担ったことで、制作ノウハウの蓄積とその水準の向上という観点から意義の大きいものとなった。合唱公演のアンケートでは「プロの合唱の人と一緒に歌えるのは貴重な体験」との回答があり、参加した市民がプロのレベルを肌で感じ、モチベーション向上に大きな刺激となった。また普及啓発事業では「定期的に実施され楽しみにしています。どうか絶やさないようお願いします」というアンケートの回答からも大阪交響楽団や野間バレエ団、地域の大学等が関与することで、地域の文化団体等の活性化や発展に繋がり、文化的意義は大きい。</p>
<p>社会的意義…堺のフォルテピアノは、世界的に見ても貴重なコレクションと言われており、アンケートから「今回のヤマモトコレクションのピアノはパワフルでかつ繊細さも兼ね備えていて、川口さんの演奏をより素晴らしく感じ、感動しました。次回も楽しみにしています。」といった回答があり、その活用と発信が助成によって継続できていることで、社会的意義は大きい。堺発祥の三味線の活用も同様だが、劇場の事業活動が地域社会のアイデンティティの形成につながり、郷土への愛着、シビックプライドの醸成につながっていくことの社会的意義は大きい。</p>
<p>経済的意義…公演事業の市外からの来場者は昨年度から継続して50%以上を保持しており、市外からの交流人口の増加に寄与している。またアンケート結果から、公演事業の前後に約39.5%の方が最寄り駅の近辺で飲食をされ、約27.6%の方が買い物（お土産等を含む）をされていることが判明した。事業の実施が地域経済に結び付いた結果が出ており、助成により地域経済の循環の一助となっている。</p>
<p>上記のとおり、文化的、社会的、経済的意義が見て取れることから、助成に値すると評価できる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

目標①堺市以南の南大阪や和歌山県、奈良県のうち鉄道で 60 分圏域からの来場者数を 30%まで増加させる。

指標：公演事業（1～8）における設定圏域からの来場者率

実績：設定圏域から来場者率 53.80%（達成）

目標②市外からの集客を図るため、パブリシティを積極的に活用し、掲載数を 30 件に増加させる。

指標：パブリシティ掲載数

実績：パブリシティ掲載数 53 件（達成）

目標③施設の存在のPRにつながり、チケット販売先にもなる市外の団体販売先を 13 団体に増やす。

指標：チケット販売先としての市外の団体等

実績：チケット販売先としての市外の団体等 17 団体（達成）

目標④魅力ある公演の来場者の満足度を示すコメントを 65%まで回復させる。

指標：公演来場者の満足度を示すコメントの割合

実績：公演来場者の満足度を示すコメントの割合 79.20%（達成）

普及啓発事業

目標①堺市市政モニターにおける文化芸術活動をしなない理由「きっかけがないから」の割合を 30%まで減らす。

指標：きっかけがないから文化芸術活動をしなない人の割合

目標：きっかけがないから文化芸術活動をしなない人の割合 44.8% ※目標には到達しなかったが前年の 46.20%から微減することができた。

目標②普及啓発事業における堺市内居住者の参加率を 72%まで増加させる。

指標：市内居住者参加率

実績：市内居住者の参加率の達成状況は 65.98% ※目標には到達しなかったが前年の 65.76%から微増した。

目標③普及啓発事業の広がり目標として、「初めて参加する」とした人を 33%までアップさせる。

指標：初めて参加した人の割合

実績：初めて参加した人の割合 24.38% ※目標には到達しなかったが前年 19.21%から 5 ポイント増加した。

目標④事業を通じてコミュニティの形成につながることを期待し「知り合いが出来た」とした人を把握する。

指標：ダンス・演劇・ゴスペルのワークショップで「知り合いができた」「新たな人間関係ができた」人の割合を計測し、今後目標を設定することとする。

実績：82.12% 前年 81.1% ※前年より増加した。

公演事業については、4つの目標指標の全てを達成した。事業番号3のオペラなどは前年度に記者会見を行った流れから、当該年度の本番までの間に演出家や指揮者のインタビューなどを積極的に発信した結果がパブリシティに繋がった。公演事業は、出演者をはじめ企画内容や演出など多くの魅力を持つものが多く、それらを発信するPRや広告宣伝がチケット販売や市外からの集客にうまく繋がって目標を達成できたことは評価に値する。

普及啓発事業については、4つの目標指標のうち3つが未達成であるものの、それぞれの実績数値は少しずつ上昇している。市内居住者の参加率を上げていくための市内向けの広報を見直し、初めて参加する人の割合を増やすために、初めてでも参加しやすい工夫をさらに検討する必要があると考えている。先入観や固定観念を取り払い、市内の芸術文化の普及に「何が有効なのか」を熟慮して取り組んでいきたい。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業

8つの事業は、ほぼ計画のとおりに進んだ。毎年度のこととなるが、事業番号2に関しては、実演ができる芸員が日本全体でも約80名程度しか存在しないことと東京と大阪での定席および地方巡業を除く部分での日程調整となるため、事業計画を作成するのが難しく、チケット販売開始時期なども想定通りにいかない部分がある。事業番号8は早期に予定していた2公演のチケットが売り切れたため、劇団と調整し1公演を追加することができた。その追加公演も完売となった。

普及啓発事業

事業番号1～4、7～10は、ほぼ計画通りに進んだ。事業番号5の演劇ワークショップは、継続して講師を務める藤井颯太郎氏との実施調整の中で、参加者のリピーターが増えていることで、演技や演出に凝るメンバーが多くなっている傾向があることから、可能な限りじっくり取り組んでいただけるよう4回コースと6回コースのカリキュラムを検討し直して組み替え、適切な事業計画をアウトプットできた。事業番号6のバレエ講座は当初3回の実施予定だったが、継続して同事業に連携している野間バレエ団との相談・協議のうえ、大人のための回について2回に分けて実施するのではなく、座学より体を動かしてみる部分を濃くしたうえで1回に集約することとしたため、事業変更の申請を行った。

公演・普及啓発事業とも、概ね当初の予定通りの事業期間となり適切に進めることができ評価できる。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業

事業番号1～8の全てでほぼ計画通りに進んだ。事業番号5の著作権料を相応に確保していたが不要となったことや、初めて取り組んだ事業番号3・4・6の公演に関しては、舞台スタッフの増員費用を相応に予算計上していたが、結果としてそこまでの増員が必要なく、未執行部分が発生したものである。

普及啓発事業

事業番号3・4・5・10のワークショップや普及型公演には、いずれも舞台スタッフの増員費を計上していたが、結果的に不要となり全額未執行となった。その理由として、事業番号3と5はワークショップの中で、講師の演技披露の場や、参加者グループの発表の場の演出対応に備えて増員を予定していたが、各回全て常駐人員のみで対応できる演出の範囲で収まったためである。事業番号4のうち1公演は、「夕暮れコンサート」と題し、9月の屋上庭園での実施を予定していたが、残念ながら雨天のため屋内に振替となり、想定していた音響などのスタッフが不要となった。加えて、事業番号10については、ゴスペルの発表は野外ステージで実施したものの、他事業の発表と併せて実施したため、当該事業の予算での増員発注がなかったため未執行となった。普及啓発事業の舞台スタッフ増員費等は、参加者の成果発表時の演出内容に左右されがちで、未執行の部分が出てしまったが、次年度以降の予算の精査をより適切に積算するよう努める。

未執行の部分はあったものの、節約を心掛けたこともあり、公演・普及啓発事業とも、概ね当初の事業費予算の範囲で進めることができ評価できるものである。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

公演事業

事業番号1は、堺の文化資源であるフォルテピアノコレクションを発信できる機会を得たことが成果である。その発展形である事業番号4の海外の古楽オーケストラの公演は、フォルテピアノ以外の楽器の音も含め、当時の音の魅力をどのように伝えれば良いか等を当ホールのスタッフが深く考えることができたことが成果である。事業番号2・6の文楽や落語で必ず使用される三味線が堺から発祥したという認識を発信できたこととスタッフにも地域の大切な文化資源であり要素として認識を深めたことが成果である。事業番号3は、初めて挑戦した自主制作のオペラであり、開館後初のオーディションや記者会見の実施、海外の美術プランナーのプランを当方の舞台技術スタッフが素材や形状を検討し、装置として具体化させた。29日間の稽古期間中、ほぼ毎日演出家や助手、指揮者やコレペティ、衣裳やメイクなどの裏方スタッフと調整や意見交換を行ったことは、制作経験の少ないスタッフの経験値を高める機会となり、ノウハウの蓄積や向上に繋がると考えられ、大きな成果と言える。事業番号5では堺の文化資源である高校ダンス部と、また事業番号6では昭和54年から活動している堺市合唱連盟とそれぞれの事業で円滑に連携・協同し、地域特有のステージを生み出すことができたことが成果である。事業番号8は、4年間続けてきた演劇ワークショップによる演劇文化の浸透を測るために、このホールで初めて実施した演劇の有料公演であり、再演のため当該大スタジオに合うように舞台美術と照明、演出を変化させ、変更部分については劇団側と当ホールのスタッフが協議し、演劇制作のノウハウの蓄積にできたことが成果である。

以上の成果が、地域の劇場としてアーティストや関係者とともに考え創り出すというスタンスに反映され、また創り出すということが当ホールの技術、制作、広報のスタッフの力の結集となり、事業内容や広報活動に「劇場の制作ノウハウ」や「プロモーションの創意工夫」として積み上がっている。またそういった事業の継続が徐々に「国際プレゼンスの向上」にも反映され、今後の自主制作に向けた自信にもつながった。総合的に見ても地域の文化拠点としての機能を最大限発揮する優れた事業であり評価できる。

普及啓発事業

事業番号1は、人間国宝桐竹勘十郎師の発案を基に、若手の技芸員が活躍する場と地域で文楽に親しみを持つ企画を練る作業は、スタッフが文楽の未来や保存継承にも繋がる視点をもつことができ、成果があったといえる。事業番号2～4・6・7・10は、事業協定を締結している大阪交響楽団をはじめ、地域で活発に活動している野間バレエ団、地域の大学や在住の講師、関係者等と地域のニーズを想定して企画の構成や対象者などの内容を意見交換し事業の企画立案における連携が図れていることが成果である。事業番号5も地域的に十分ではない演劇をどう浸透させていくかを念頭に、講師と企画段階から対話を重ねたことが成果である。事業番号8は、あらゆる人々が集う場としての地域の劇場のあり方を出演者やスタッフが一緒になって考える良い機会となる事業であり、来場される障がい者等をイメージして、劇場の合理的配慮を自ら考える機会となることが成果である。事業番号9は、公演事業と関連付け、子どもたちにもより楽しく、より深くオペラを理解してもらうためのワークショップの企画を指揮者や演出家とも相談して決定したプロセスが成果である。

全ての事業が人脈の広がりなどに繋がり、また地域を拠点にしている人や文化団体との接点となって、地域が抱えている問題や課題などを知る機会にもなり、地域のニーズをより深く考え、そのニーズに沿ったアイデアを具体的に形にする過程において、自らの組織内に存在する舞台技術者と演出効果やコストについても相談することは制作ノウハウの向上にも効果的であった。地域の文化拠点としての活動を最大限に発揮する優れた活動であったと評価できる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

公演事業

事業番号1は「いつも新しい気づきがある素晴らしいリサイタルシリーズ」「ショパンの歌曲を初めて知ることができて良かった」というアンケート結果から地域住民にとって新しい発見の機会となっていることがわかる。事業番号2では、テーマを絞った演目選びや座談会、演出の秘密などにより、理解が深まるなどの意見を得た。事業番号3のオペラでは、「会場に入ると誕生日プレゼントの巨大なリボンが客席にあり、舞台周辺にはたくさんのバルーン（風船）が飾られて、異空間に踏み込んだかのよう。」（関西音楽新聞9月号のオペラ評より抜粋）や「3人の童子の音楽を合唱に替え、地元の子どもたちにも舞台参加の道を開いた。」（音楽の友12月号の演奏会批評より抜粋）などの評論により、自主制作した舞台が地域の文化芸術の発展に繋がった。またアンケートの回答から、事業番号4では「堺の地でこんな催しがあるなんて、とても良かった」「フェニーチェ堺主催公演は地元のお客様が多いという印象があり、一定の成果を上げていると感じている」事業番号5では「高校生の活躍できる、輝ける場を設けてくださりありがとうございます」「毎年楽しみにしています。堺市の高校に在学で良かったと思います」事業番号6では「堺市合唱連盟との合同ステージは期待していなかったがとても良かった。驚いた。東京混声合唱団が入ることでこんなに素晴らしい大合唱になると大変勉強になりました」などが、事業番号7では「江戸落語を聞きたい」「聴き比べがよかった」事業番号8では「観客と同じ高さでの舞台の作り方が新鮮だった」とそれぞれの事業に対する意見が聞かれ、市民をはじめ多くの人々が、堺のアイデンティティを感じる文化資源によって、発見や感動、喜びなどを味わえた点において、地域の文化振興に繋がったと認められる。

普及啓発事業

事業番号1・2では、「廻り盆がかなり本格的な舞台で少し驚きました」「若手3人の普段は聞けない裏話までたっぷり楽しめました」や、「講座はとても分かりやすく、文楽の知識が増えて大変参考になります」「実際に演じている方からしか聞けない貴重なお話がたくさん出てきてとても面白かった」という意見。事業番号3では市内居住者参加率について、親子対象にしたものは100%であり、シニア対象にしたものは66.7%と高くなっている。事業番号4では、「気軽に聞けるので楽しかった」「普段聴くことの少ないヴィブラフォンとハーブの合奏は大変良かった」「お茶を飲みながら春めいた優雅な音楽を聴けていい気分」などの意見により、音楽が来場者の気持ちを豊かにしていることがわかる。事業番号5では、参加者のうち20代以下が約65%となり、若年層に芸術文化の道が開けた。事業番号6では、「母娘とも大満足の内容でした。こんなに身近で一流バレエダンサーの踊りを見れて感動しかありません」「なぜこうするのか等詳しく説明してもらいバレエを深く知ることができました」「ダンサーの方と近くて、その息づかいや手の細かい動きも見れて興奮しました」という意見から満足度が高く、次回も参加を希望する声が多く聞けた。事業番号7では、この企画で落語が好きになった来場者が小ホールの落語にも参加され、鑑賞者自身のステップアップになってる。事業番号8は3年連続での実施であるため、視察に来る劇場が増え、中には視察後に自らの劇場で実施された例も生まれ、他館への波及効果が出ている。事業番号9では実際にオペラに興味を持ち、本公演のチケットを買って帰られる参加者が多く見受けられた。事業番号10では、リピーターが多くなっていたが、初めての人が参加しやすいように、体験会を企画し、そこに参加した人を優先したことで、初参加の人が12.9%に上昇した。

普及啓発事業は、大阪交響楽団や野間バレエ団など地域の団体との協同を続けてきた結果、コミュニケーションが円滑になり、事業の目的や意図がスムーズに伝わっている感じがしている。それらの連携事業は市内の他の文化施設でも行われるようになり、身近な文化施設で体験や参加の機会が増加していることは、自らの生活への変化や刺激であり、それらを楽しむ人々によって、地域の文化芸術の発展や活力ある地域社会の構築につながると考えられるため大いに評価できる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業運営

積極的な多目的ホールを掲げている当劇場では、堺の文化資源等を活用することやまちの賑わいにも寄与する、発信力と市外からの集客を期待できる公演事業を実施することと、市内芸術文化団体等と連携、協同して芸術文化を享受する堺市民のすそ野の拡大を念頭にした普及啓発事業を実施している。これらの事業は、企画制作担当課のスタッフが中心となって実施しており、これまで同課のスタッフは、事業をメインに担当する者と広報営業をメインに担当する者と大きく区分けしている。しかしながら、公共ホールのスタッフとして、可能な限り多くの経験を積むことが重要であると考えているため、事業担当者も広報（SNS等）を担ったり、広報の担当者も事業を担当している。

また、事業担当者は継続して担当する公演には単なる前例踏襲ではなく、経験と実績を活かした次年度への改善と応用に取り組むことを促しており、直接雇用の舞台技術スタッフとの意見交換なども活用し、様々なアイデアを形にするなど、実践的な学びの場にもしている。加えて、新規公演には積み重ねた知見による応用力や柔軟性を発揮し、適応できるように担当者を決めており、事業運営のPDCAサイクルを活用している。

さらに、主にベテラン勢が業務の中で培った人的ネットワークなども経験の浅いスタッフに共有されるよう主担・副担制を導入していることや、障害者対応や危機管理対応などが求められる事業は敢えて毎年担当者を代え、個々の意識を引き上げるようにすることで、組織全体の質を高めるようにしている。

経営戦略

団体としての自律的な経営をめざし、自己財源比率の向上に注力する。チケット収入の増加のための的確な広報宣伝を行うとともに継続的に助成申請を行えるよう組織体制を強化する。また、寄付金や協賛金を獲得するためのスキームを構築する。

人事戦略

令和6年4月に10年間の指定管理期間が新たにスタートしたこともあり、事業継続のための運営体制づくりとして、引き続き専門的ノウハウを有する有期雇用職員を正規職員へ徐々に登用する方向である。また、新たな採用については、組織が偏った年齢構成にならないようにバランスを考え、持続可能な運営ができるような組織づくりとする。

ネットワークの構築

公益社団法人全国公立文化施設協会、公共劇場舞台技術者連絡会、劇場・音楽堂等連絡協議会へ参画し、それぞれの団体が企画する研修会などへの積極的な参加を促している。参加することで人脈も広がり、劇場間のネットワークへと発展している。今後は首都圏の劇場との共同制作などに参画し、さらなるネットワークの構築と劇場としてスキルアップできるよう行動する。

中長期経営計画

2023年度、公益財団法人堺市文化振興財団はこれまでの取組を継承しながら現代社会に適応し、市民文化生活の向上と地域の発展に一層寄与するため、当面のめざすべきビジョンと戦略・施策の方向性などを取りまとめ、中期経営計画を策定した。フェニーチェ堺の2024年度からの指定管理期間10年を公募で勝ち得たことも踏まえ、計画の中で今後の「重点戦略とその方向性」を定め（Plan）、それを実行（do）し、独自の目標指標を設けて進捗管理（Check）を行うことで、次の行動に反映（Action）することを位置づけた。以上のことから、今後も組織が自律的、持続的に発展していくと考えられ、自治体の条例や文化芸術推進計画、文化芸術審議会にも則った施策展開を図り、地域の文化振興を担っていく存在であると評価できる。